夢窓幼稚園通信第24号

2016年　6月30日

最近　よく「木」のことを想いめぐらしています。年明から、今年のなつまつりは、「木」にちなんだことをテーマにしたいと、漠然と思っていたのです。
京都で育った木をいただいての建て替えに向けて、いろいろと考えてきたので、木が私の方に近づいてきてくれたのかもしれません。

先日も、園庭のさくらの根っこが土の中でいったいどこまで伸びているのか想像して、その辺りを歩いてみたら（実際どこに根があるのかちっとも分からないのですが）、何だか地面が違って感じられました。
幹をたたいて、「いつまでも長生きでしっかり立ち続けて、気持ちのいい陰を作ってね！」と、お願いもしました。
枝をさすって、たくさんの緑葉をつけて風に呼応する見事さを、どうしても讃えたくて仕方なくなって・・・・
まあ、とにかくあれやこれやを想って過しています。

人が地水火風の働きに触れ、その中で生きているように、木々もそれらをしっかり受けとめて生きています。

人のあちこち動くのとは違い、大地に根を張って生きている分、周囲のそれらの力の影響をより深く受け、無言ながら存在全体でやりとりをしているかもしれません。
大地と天空の間で、より確かに立っているのでしょう。
木の方が私たちより素直で、我慢強く、与えられたものを受けいれ、周囲のものに帰依して、おひさまと地面の間を生きているに違いありません。

皆さん、いかがでしょうか。
そんな木々に憧れを感じることがありませんか!?

晴れ間に 木陰に身を寄せ、ただただ上を眺めていると、
見事な景色に 思わず深呼吸です。

葉っぱの隙き間から 空が見えます。
おひさまの光が ぴーんと射し込みます。
風が木の中を流れます。
時には雨音を響かせ、たのしませてくれます!

木が そこにあることで生まれる空間や、その空間に生じる
様々な営みに、不思議な「時間」を感じます。
空間の中に響いている時間をです。

雨音と共に揺れる葉っぱたちを通して、また葉と葉の重なり
の間の小さな空の青さによって、懐しく あの時の一瞬が甦り
ます。

根っこから幹を通り抜け枝の先へと流れる樹液を
想うと、リズムをとって生命の力強さを刻みつける時の
流れを感じます。
風と共に作る木々から漂う香りが、遠い
過去と未来への静かで、おおらかな励ましを
届けてくれます。

大地と天空にはさまれた空間は、同時に、時間が端々しく
湧き出る場であることを、木々が教えてくれました。

新しい 7月が やってきます。

私たちは、今 この土地と大空の間で、様々な営みを通して
「時」を生き 時をつむいでいるのでしょう。

木々と共に 7月を生きたいと思います。
なつの おまつりを 生きたいと思います。

皆で、よろこびの時を 共有できることを願っています。

園長 弁光泰雄